



7月号



# たんぽぽ組だより

令和3年7月20日 ことり保育園 担当: 安友

雨降りの日、色とりどりの長靴で嬉しそうに登園する子ども達。  
小さな水たまりに、そうと足を踏み入れるとまの わくわくした表情を見ると、  
じめじめけ=気持ちも吹き飛んでいます。

さて、今まで“自分の好きな遊びをじっくり楽しむ”ことが多かったのですが、  
少しずつ、“お友だちと一緒に遊ぶ楽しさ”=気うく子が増えてきました。  
先日、マグワーマーという磁石の玩具で遊んでいたときの事です。一人の  
女の子が、四角いパーツを繋げて円を作り、中に入れてニコニコしていました。  
保育者が、「お風呂かな？ザグーン」と声を掛けると様子を見て、近くには子も  
「ザグーンする。」と言って同じパーツを集め始め…数人のお風呂が集まって、  
「たんぽぽ温泉」が完成しました。「先生も入りたいたいな。」と呟くと、  
「いいよー。」の声とともにお尻をちょっとだけすらし、スペースを作ってくれました。  
大人の体はとて入らない、小さな空間でしたが、優しい気持ちで嬉しく、  
いい温泉一場面でした。

また、別の日にはワリックスブロックを赤、青、黄、緑に色分けして並べている  
男の子(Aくん)がいました。興味を持ったもも組のお友だちがブロックに手を  
伸ばすと、困った顔で「ダメ、ダメ…」保育者が間に入り、「そうだね。触ったら  
壊れちゃうから、見るだけにしたいんだよね。」と思いを受け止めてから、  
「でも、〇〇ちゃん(もも組)もやりたいんだって。どうする？」と尋ねました。  
初めは困っていたAくんですが、しばらく考えて、ずつと自分のブロックを2つ持ち、  
お友だちに差し出しました。もも組のお友だちは嬉しそうにブロックを握って  
別の場所へ歩いて行き、Aくんも安心して遊びを再開していました。

異年齢間見との関わりや遊びをとおして、日々成長していく子ども達の  
お手伝い出来ることを本当に嬉しく思います。これからも温かいまなざしで  
見守ってまいります。

